

# Electrostatically Addressable Visored Shutter Array by Electroplating for Astronomical Spectrography

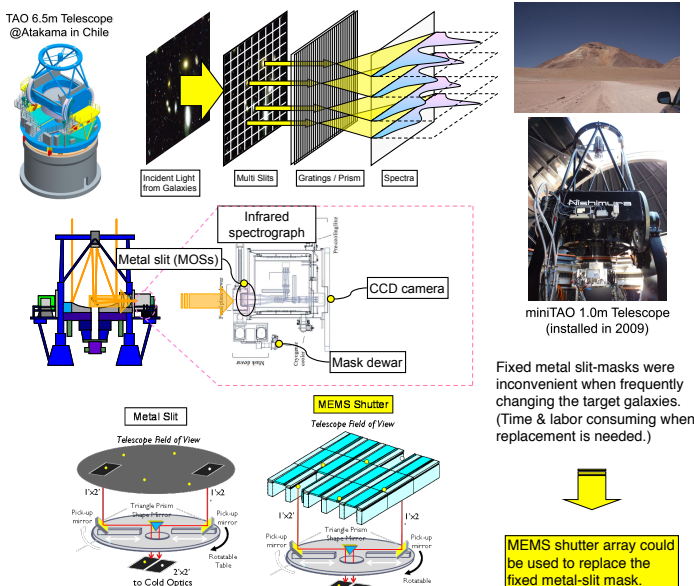
T. Takahashi<sup>1</sup>, M. Mita<sup>2</sup>, K. Motohara<sup>1</sup>, N. Kobayashi<sup>1</sup>, N. Kashikawa<sup>3</sup>,  
H. Fujita<sup>1</sup>, and H. Toshiyoshi<sup>1</sup>

<sup>1</sup>University of Tokyo, <sup>2</sup>JAXA, <sup>3</sup>National Astronomical Observatory of Japan

本研究の最終目標は、東京大学理学部天文センターが中心となって南米チリのアタカマ高地に計画している「東京大学アタカマ天文台」の6.5m級望遠鏡に搭載する近赤外分光器を「多天体分光器化」して、遠方銀河のディープサーベイを短時間に効率よく行う技術を開発することである。分光器に従来搭載されてきた金属スリットに代わるデバイスとして、本研究室ではトーションミラー型静電駆動シャッタアレイを開発中であるが、今回はシャッタ上方に3次元的に底構造を追加した新たなデバイスについて報告する。この底構造は表面マイクロマシニング技術の電解めっきを用いて製作され、それ自体を独立した電極として使用する。シャッタ個々に電気配線をする必要なしに任意のシャッタのON/OFF駆動と静電ラッチが可能となり、シャッタ板周囲の漏れ光対策のみならず、素子数を増やしデバイスを大面積化し際に生じる配線問題の解法としても期待できる。

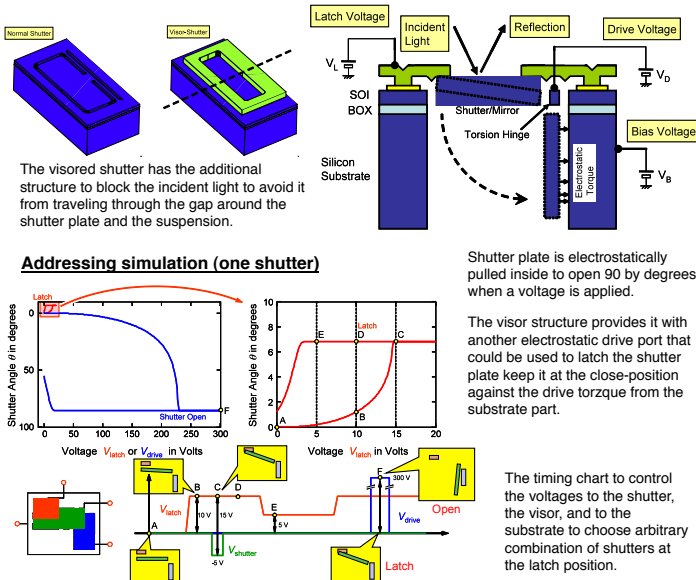
# *Introduction*

### Astronomical Multi-Object Spectrographs (MOSs)

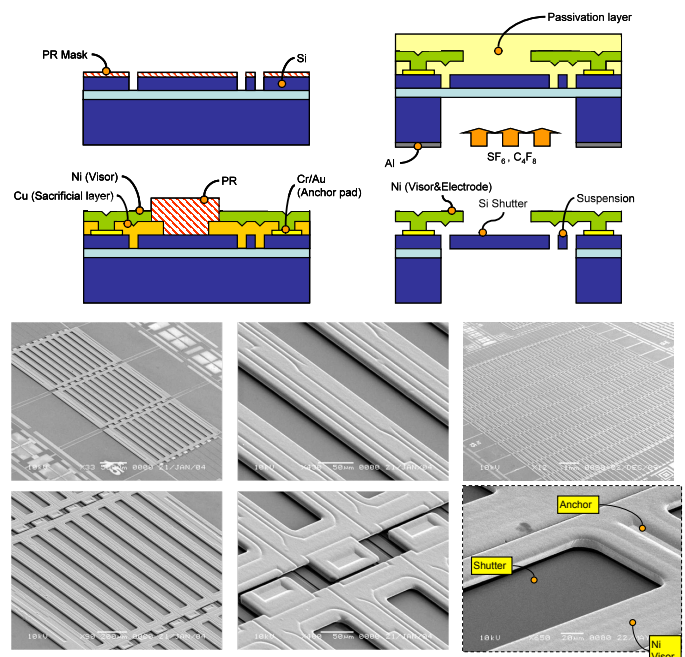


## Experimental setup

### Device structure

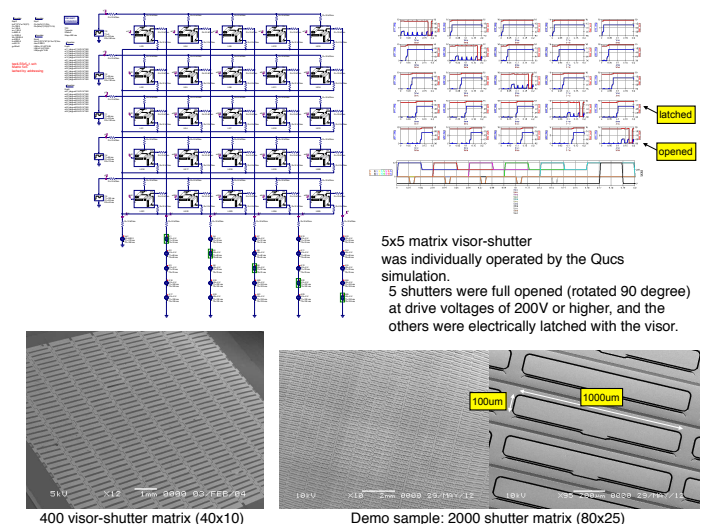


## Device Fabrications



## Recent Works

### Addressing Simulation (5x5 shutter matrix)



---

Contact: takuya@iis.u-tokyo.ac.jp

藤田・年吉研究室

**Micro Nano Electro  
Mechanical Systems**